

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合事業）
分担研究報告書

急性期病院入院中の認知症患者の医療の全国調査

研究分担者 谷向 仁 大阪大学保健センター 講師

研究協力者 なし

研究要旨：急性期病院の認知症の対応、特に入院受け入れの段階、入院中の段階、転院あるいは退院調整の段階についての実態について把握し、課題や問題点について医療連携室を通して全国的に調査する。昨年度行った急性期病院の複数の連携室スタッフを中心としたフォーカスグループにおいて得られた、連携室の構造や業務の実態、入院のバリア、入院中の問題点や依頼内容、退院・転院調整の実態、在宅へ返すことへのバリアなどの現状を踏まえ、全国調査の調査票を作成した。現在、本調査に関する倫理委員会への申請を、研究代表者所属機関である国立がん研究センターに依頼している。倫理委員会の承認が下り次第、全国調査を実施する予定である。

A. 研究目的

急性期病院の認知症の対応、特に入院受け入れの段階、入院中の段階、転院あるいは退院調整の段階についての実態について把握し、課題や問題点を医療連携室を通して全国的に調査する。

請準備中である。

D. 考察

特記事項なし。

B. 研究方法

昨年度実施した、急性期病院の連携室スタッフを中心としたフォーカスグループでの意見交換にて得られた、連携室の構造や業務の実態、入院のバリア、入院中の問題点や依頼内容、退院・転院調整の実態、在宅へ返すことへのバリアなどの現状を元に全国調査に向けての課題を抽出し、全国調査の調査票を作成し、研究代表と吟味の上調査票を完成させ、研究代表者の所属する国立がん研究センターの倫理委員会にて審査を受ける。

E. 結論

2015年度に全国調査を行う。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

(倫理面への配慮)

特記事項なし。

G. 研究発表

論文発表

1. Tanimukai H, et al: Novel therapeutic strategies for delirium in patients with cancer: A preliminary study. Am J Hosp Palliat Care, in press
2. Tanimukai H, et al: Association between depressive symptoms and changes in sleep condition in the grieving process. Support Care Cancer, in press
3. Hara S, Tanimukai H, et al: An audit of transmucosal immediate-release

C. 研究結果

連携室の構造や業務の実態、入院のバリア、入院中の問題点や依頼内容、退院・転院調整の実態、在宅へ返すことへのバリアなどについての調査票を作成した。現在倫理委員会申

Fentanyl prescribing at an university hospital. Palliative Care Research, 10(1):107-12, 2015

4. Tanimukai H, et al: Sleep problems and psychological distress in family members of patients with hematological malignancies in the Japanese population. Ann Hematol. 93(12):2067-75, 2014
5. Omi T, Tanimukai H, et al: Fluvoxamine alleviates ER stress via induction of Sigma-1 receptor. Cell Death Dis. 5:e1332, 2014
6. 谷向 仁他: 認知機能改善薬. 臨床精神薬理学テキスト 改訂第3版, 日本臨床精神薬理学会専門医制度委員会(編), 276-289, 星和書店, 2014

対する新たな薬物療法アルゴリズム作成に関する検討, 第27回 日本サイコオンコロジー学会総会, 東京, 2014/10/4, 演者

8. 谷向 仁: 精神科医として緩和ケアチームに参加して学んだこと、感じたこと, 西宮市精神科医会学術講演会 芦屋市, 2014/11/13, 演者

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特記すべきことなし

学会発表

1. 谷向 仁: 認知機能に配慮したコミュニケーションを考える, 第16回 日本緩和医療学会教育セミナー 博多市, 2014/1/11, 演者
2. 谷向 仁: 新規睡眠薬を使いこなす - 従来薬との違いを含めて, 第19回 日本緩和医療学会学術大会 神戸市, 2014/6/21, 演者
3. 谷向 仁: せん妄の診断、治療、チームアプローチに際してぜひ若手精神科医に知っておいて欲しい必須知識, 第110回 日本精神神経学会学術大会 横浜市, 2014/6/27, 演者
4. 平井啓, 谷向 仁他: メンタルヘルス受療行動の適正化に有用なメッセージ開発, 日本心理学会 第78回大会, 京都市, 2014/9/12, 共同演者
5. 佐々木淳, 谷向 仁他: メンタルヘルスの専門機関の利用と心理的問題の原因認知の変化, 第14回 日本認知療法学会, 大阪市, 2014/9/12-9/14, 共同演者
6. 中村菜々子, 谷向 仁他: メンタルヘルス受療行動を実行した者の特徴: 受療を決めた理由の質的分類, 第14回 日本認知療法学会, 大阪市, 2014/9/12-9/14, 共同演者
7. 谷向 仁: がん患者にみられるせん妄に